

田畑は石川原の如し 石川原をおしし うどん花をすてるが如し。」

「天ハメグマセ玉イドモ 国主ノメグミナキ故ニ諸事 ナンギ致也」

一八六四年（元治元年）明治になる四年前の二月十日一揆指導者の中で処罰された数少ない一人として牢死しました。

法名 天量白清禅居士

享年 四十五歳

実はこの一揆は、六年前の一揆のやり直しでした。

一八四七年（弘化四年）十月、三閉伊通りに大きな一揆が発生しました。

### 弥五兵衛の七回忌

一揆の最高指導者は弥五

兵衛でした。弥五兵衛を後に捕縛した工藤乙之助の報告によれば「野田通浜岩泉村の内、枝村切牛の弥五兵衛（幼名権太・当節は万六と申し、年令六十七歳で筋骨健にして弁舌能（よく）肝太き曲者」と言っています

す。（内史略より）

万六が十七年間という長い年月をかけて領内を一村一村尋ねて（万六は、一人

ではなく、複数いるという説があります。）呼掛けを行

い三閉伊通一〇カ村の百姓一万二千人が遠野の早瀬川原に押しかけました。

途中この一揆を鎮圧しようとする南部藩の役人との戦いが展開されて死者や負傷者も沢山出ました。

この時の一揆勢と南部藩士・遠野藩士が早瀬川原に整列した様子を描いた図面を

近年遠野市立博物館が入手、展示しています。

取調べに当たった盛岡から出張してきた南部藩の役人

には誰一人として口を開くものがいなかった。

盛岡から出張してきた担当役人は、最高責任者の南部

土佐に対して「盛岡から来た役人全員をこの場から引き離し遠野の役人だけに

すれば申し出ると思う。」との進言に引き離して通行も禁止した。

これによって初めて年寄り

分の者達が進み出て遠野の役人に対して「弥六郎様

御内新田小十郎様に願ひ上げたいので、はばかりながら御出会い下されたい。」と

会見を申し込んだのだった。小十郎が駆けつけて名乗ると「我々が知っている新

田小十郎という人はこの人ではない。」と一時騒然となったが先代が亡くなり家督を

継いだ息子小十郎であるということが判り、お願いが始まった。

遠野では、殿様は代々弥六郎を名乗り、家老の新田小十郎も襲名だった。

一揆勢は、遠野の殿様で

南部藩の大老だった南部弥六郎に訴え、慈悲深い取り

扱いと南部藩から出張してきた重役南部土佐によって「生活が成り立つように藩政を改善し処罰も行わない。」

との約束を取り付けたが結果は指導者弥五兵衛は捕らえられて嘉永元年六月十五日牢死した、と内史略に記されていますが、五月一七

日に藪川で切り殺されたのが本当の様です。（一揆の奔

流）他に多数が流罪になっ

たばかりか、人々はより重い税金が課せられ以前にも

増して悲惨な生活をさせられることになりました。こうして、六年後、嘉永の大

### 膨大な資料

一揆が起こったのでした。

普通歴史的な事件を調べる時に資料をどのようにして探すが大問題なのですがこの事件は、歴史的には比較的新しい時代でも有り資料も豊富です。

取調べや応対に当たった

気仙郡大肝入吉田家がこの

事件分だけを別に書き留めており（気仙沼の西田耕三氏解説、耕風社が一九九五

年に上・下二冊を出版）、同じく取り調べに当たった気仙郡足軽御組の伊藤清太郎の「南部義民伝」そして当時の南部藩大槌代官横川貢を甥に持ち体が弱くて生涯仕官せず大慈寺の一室で学

問に打込んでいた学者横川

良助の著書「内史略」二十

巻の大冊の後ろ半分もこの一揆を詳細に記録していま

す。森嘉兵衛著「南部藩百姓一揆の指導者三浦命助伝」この研究の発端になった仙

龍軒寝忘僧南石著（正体不明）「遠野唐丹寝物語」一

八四年発行、佐々木京一著「一揆の奔流」三浦命助著

「三浦命助獄中記」「田野畑風土記」や「岩泉ふるさとノート」そして各市町村の

市史・町史・村史・岩手県史・宮城県史など一通り

読むのに一年も掛かるのではないかと思われるほど膨大な資料があります。

寺報という限られた範囲です、ごく一部を紹介致しました。

唐丹村に関連する嘉永六年の一揆を先に掲載し、今回はその背景になった弘化四年の一揆を取り上げました。